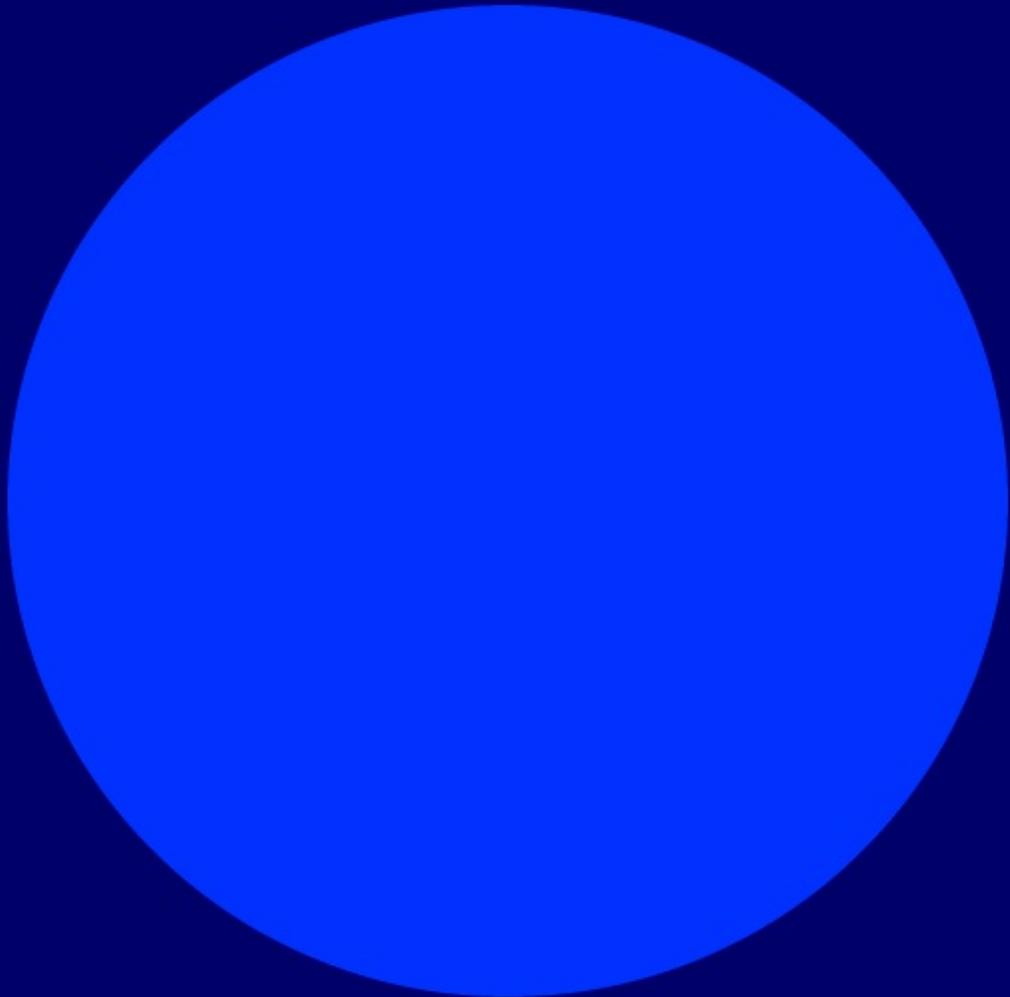


# 彩夢呂

ayamuro



その昔、広島カープに『北別府 学』という投手がいた。妻との間でその投手の話題になった時に、『北別府 学』という名前は非常に語呂が悪いのでは、という議論になった。語呂というか、名字と名前のアンバランスさ加減が気になったのである。バランス的には『北別府 桃太郎』ぐらいのニュアンスの方がいいのでは、という話でまとまった。

そんな話をした夜に、こんな夢を見た。

そこは東京ドーム。僕はセカンドのあたりで守備についていた。そう、僕は巨人軍の一員であり、スタメンで試合に出場していたのである。サードの方を見ると、そこではいつの間にか、原辰徳監督が守備についていた。やけに自信満々で、その表情には微かな笑みさえ見て取れた。

ピッチャーは上原。試合はすでに終盤で、9回表2アウト。上原のピッチングは快調そのもので、巨人は3-1ぐらいのスコアで勝っていた。完投ペースである。

上原は、打者に対して第1球を投げた。ボール。第2球目。カーン。打者が手を出し、小フライになった。

セカンドの僕は、猛然とダッシュして捕球を試みた。しかし、グラブには当てたものの、ボールは無情にも宙に浮き、お手玉のような状態に。それをピッチャーの上原が捕ろうとするも、またもお手玉。近くにいたキャッチャーの阿部慎之助もそれをお手玉。と、そのような状態で、内野手が入り乱れてダイビングしながら、ポンポンとお手玉を続けていった。

そして、満を持して、サードの辰徳がいらしたのである。

辰徳は、物凄い形相と勢いで打球に飛び込み、見事、キャッチすることに成功した。

「捕ったぞおおおおおー—————！！！！！！！！！！」

辰徳は、喜色満面で目をめいっぱいに見開き、白い歯を見せながら、お山の大将の如く叫んだ。巨人軍の内野手達は、それを見てこらえきれずに大爆笑するのであった。僕も多分に洩れず爆笑してしまい、その自分の爆笑する声で、目が覚めた。とんでもないゲームセットであった。

その日、妻との間で「我が家に名前をつけるとしたら何がいいか」という話になった時に、僕は、『北別府 辰徳』か、『釣り堀 辰徳』がいいのでは、という意見を述べた。僕的には『北別府 辰徳』の方が、バランス的にも語感的にもいいのではないかなあと思ったのであるが、妻は納得せず、他にも決定打となるような案は出なく、結局今現在、我が家に名前はまだない。

(2010年5月22日の彩夢より)

## 落ち穂くん

---

ある農業協同組合が、米のマスコットキャラクターとして「落ち穂くん」というキャラを作って売り出した。収穫した方ではなくて、落ち穂にスポットライトを当てるなんて、物凄くハイセンスな農協である。

そんな農協が現実にはなかったら、僕は諸手を挙げて応援したい。

(2010年5月26日の彩夢より)

## そば屋探しの旅

---

将棋の駒の名産地としても知られる山形県天童市。僕はそのあたりを一人旅していて、電車で仙台へと向かうことにした。途中、山形駅で電車を乗り換えたときに、ホームに荷物を全部置き忘れるという痛恨のミスをしてしまう。そのホームに戻ってみたが、荷物は跡形もなく消えてしまっていた。

しかたないので、仙台に行くのをやめて山形駅周辺でそば屋を探すことに。しかし、探してる途中で、荷物も財布も無いのでお金を払えないことに気づき、やむなくそば屋探しは断念の方向に。極めて短いそば屋探しの旅は幕を閉じた。

(2010年5月27日の彩夢より)

## ますだおかだの岡田

---

ひよんなことから、ますだおかだの岡田の自宅に遊びに行くことになった。岡田の家は1Kで部屋は4畳半ぐらいというかなり狭い家で、でかい岡田が立つと天井に頭が届きそうな勢いであり、若干暑苦さも感じるほどであった。

彼は非常にテンションが高く、色んなギャグを連発していたが、心の底から笑えるものはほとんどなく、僕は愛想笑いのセレナーデを繰り広げていた。そして、話もあんまり弾まないで、そこそこに切り上げて帰宅することにした。帰ることを岡田に伝えると、岡田は苦笑いをしながら、ちょっと寂しそうな表情を浮かべていた。

(2010年6月5日の彩夢より)

## そして誰もいなくなった

---

今朝の夢。くるりから佐藤さんが脱退することになり、くるりは岸田さんのソロプロジェクトへと移行する。レコーディングに遊びに行ったら、スタジオ内で、身の毛もよだつような心霊現象が、ありえないほど多発した。

最終的に、それに恐れをなした岸田さんも脱退して、くるりからは誰もいなくなった。

代わりに僕がくるりを名乗ろうかとも思ったが、レコーディング中の心霊現象が怖すぎるので、やめといた。

(2010年6月17日の彩夢より)

## さっぱり小ざっぱり味

---

三十路になって初めての夢は、「さっぱり小ざっぱり味」という味の歯磨き粉で歯磨きをしたら、ドーピング的に上手く歯が磨けて、そら恐ろしくなるという夢だった。

確かにその味は、さっぱりだった。

(2010年6月20日の彩夢より)

## ムスカの迷言

---

ラピュタをDVDで見る夢を見た。佳境に入り、ムスカがパズーに次のような台詞を言っていた。

「今すぐここを立ち去らないのは、新名所の冥界だ！！」

ムスカの眼鏡は、いつもにも増して、妖しく光っていた。

(2010年7月13日の彩夢より)

## 安くて高い給料

---

会社での上司評価がめちゃくちゃ低くて、給料が半分ぐらいに減らされる夢を見た。

「これじゃあ生活できません！」と上司に言ったら、「君の給料は、安くて高いんだよ」と、よく分からぬ言質で言い含められ、何故か納得したのであった。

(2010年7月17日の彩夢より)

## THIS IS PANICのウエダ君

---

飛行機で大阪まで行く際に、駅から空港までの道のりをTHIS IS PANICのウエダ君に案内されるという夢を見た。

お礼にレストランでかた焼きそばをご馳走しようとしたが、「昼飯を食べたばかりなので、いいです。」と、にやけながら遠慮されたのであった。

総括すると、ウエダ君はとても親切な好青年であった。

(2010年8月24日の彩夢より)

## もっけだキャラバン

---

庄内もっけだフェスティバルを、アーティストの皆さんやスタッフと一緒に全国を移動しながら開催する夢を見た。

名づけて「もっけだキャラバン」。それはそれは、楽しかった。特に、新潟のあたりが一番盛り上がったのであった。

(2010年9月19日の彩夢より)

## Beck兄さん

---

ミュージシャンのBeck兄さんと一緒に、日本の田園風景の中をスーパーマリオみたいに駆け回る夢を見た。

Beck兄さんは急にダッシュしたりするのであるが、僕は「これがBダッシュかあ」と心の中で思いながらも、必死についていった。

ステージのゴールの直前にはでっかい割れ目があって、それを大ジャンプで越える必要があった。

Beck兄さんは、「ココニャーゴ」のリズムで飛べ、とのありがたいアドバイスを下さった。それに従って、「ココニャーゴ」のニャーゴでタイミング良くジャンプしたら、上手く飛べて、見事無事にクリア出来た。

ありがとう。Beck兄さん。

(2010年9月19日の彩夢より)

## Good Position

---

でっかい野外フェスでYOMOYAがライブをやっていたが、客が僕一人しかいないので、キーボードの長倉さんがヤケになって酒をぐいぐい煽りまくり、べろんべろんに酔っ払っていた。

「Good Position～♪ Good Position～♪」というサビの、めちゃくちゃポップな曲がやけに印象的だった。

僕一人で必死になってアンコールを要求してみたら、アンコールでもその「Good Position」を歌ってくれた。

ありがとう。YOMOYAさん。

(2010年9月26日の彩夢より)

## ひでえシュートにサヨナラを

---

学校のグラウンドみたいなところでサッカーをやっていたら、突然、本田圭佑が乱入ってきて、ぼてぼてのシュートを放った。力なく転がったボールは敢え無くゴールキーパーにキャッチされ、本田圭佑は頭を抱えながら、「うわあー！！ひでえシュートにサヨナラを！」と叫んだ。

それを聞いた僕が、「今度、『ひでえシュートにサヨナラを』っていう曲を作りますよ！」と、本田圭佑に対して媚びへつらっていた。そんな卑屈な自分にサヨナラしたい。

(2010年10月3日の彩夢より)

## 酒田市生石をめぐる冒険

---

酒田市の東平田にある地区、生石（おいし）に行く夢を見た。車で行ったのであるが、「十和田湖の源流は生石にある」という、まことしやかな看板が立っていた。

そのまま道を進むと、そのまま洞窟のような資料館に入った。洞窟を抜けると、そこは何故か大分県であった。道路脇に人が立っていて100円を渡され、「ここからは先は車を引きながら歩いて下さい」と言われた。しばらく車を引いて進むと、料金所みたいな感じでまた人が立っていて、その人が100円を回収するのだった。

あれか。病院とかの鍵付きの傘立てを使う際に、100円入れるけど使用後に戻ってくるみたいなあれの逆バージョンか。

何故100円を渡すのか、と料金所のおっさんに聞いてみたところ、「100円を渡して歩かせることで、車のスピードを抑え、事故防止に役立てるのだ」との説明。なるほどなと妙に納得しながら進むと、また酒田の生石に戻ってきていた。

庄内平野の田園風景に感動しつつ、その感動をTシャツに込めて自作しよう、と思い立ち、「僕はこーです。あーです。あーだこーだです。」という文言が胸に書かれたTシャツとなって結実するのであった。

改めて振り返ってみると、うん、この夢は長いだけであまり面白くない。そんなことに気づいた日曜の昼下がりであった。

(2010年10月10日の彩夢より)

## 主成分のラベル

---

某メジャーレーベルのA&Rの人に、「アヤテ君は、通常のリーグ戦と、日韓戦と、あともうひとつ決め手となる試合でのゴールが必要だよね。今のままだと、主成分のラベルに何て書いてあるのか読めないんだよ。」と上から目線で言われた。

(2010年10月27日の彩夢より)

## イノシシみたいな獣とヤンキー

---

今朝の夢。酒田の実家から上興野という集落のあたりを散歩してたら、けむくじゃらで胴長短足のイノシシみたいな獣が、「ワンワン！」と吠えながら追ってきた。恐かった。

車でヤンキーが通りかかり、思わずその獣を轢こうとするのであるが、「何だなやそれ。でも、轢ぐなもかわいそうだしの。」と言い、小さく笑って去って行った。

田舎のヤンキーは、得てして優しい心を持っていたりするものである。

(2010年11月3日の彩夢より)

## 斎藤酒店とRADWIMPS

---

酒田の斎藤酒店という酒屋で、RADWIMPSのメンバーが働いていた。

その酒屋によく通っていた僕は、彼と仲良くなる一歩手前みたいな状況になっていた。

そんなときにヴォーカルの野田君から僕の携帯に電話がかかってきて、もっけだフェスのことを話して盛り上がっていた。

(2010年11月3日の彩夢より)

## 子犬が入ったデジカメ

---

旅行先に持ってったデジカメの中には、何故か子犬が入っていて、「呼吸大丈夫かなあ」と子犬を心配しながらも写真をぱしゃぱしゃ撮りまくっていた。旅行から帰ると、子犬は疲れも知らずにデジカメから飛び出して走り回るので、ほっと胸を撫で下ろしたのであった。めでたしめでたし。

(2010年11月3日の彩夢より)

## 『行く末』に対するアンサーソング

---

The Musiqueのライブを観て感動し、名曲『行く末』に対するアンサーソング『来し方』を作曲するという夢を見た。「もしも時間が止まって 風が吹くのをやめたなら」という歌詞だった。メロディーを覚えているので、ちゃんと形にしてみようかなとも思う。

(2010年11月23日の彩夢より)

## ライブハウス「html（ヘテムル）」

---

今朝は、ライブハウスを作る夢を見た。htmlと書いて「ヘテムル」という名前のハコで、ロフト付きで五畳半ぐらいのアパートの一室がステージ兼フロアになっていた。お客さんが寿司詰め状態で盛り上がっていた。

(2010年11月26日の彩夢より)

## 酒田でオールスター戦

---

国立駅の大学キャンパスから新宿駅あたりまで歩くのをハンディカメラでUst生中継するという夢を見た。途中で何故か京都のお寺に寄ったりして、ゴールは酒田の漆曾根の実家だった。物凄い移動距離である（笑）。

実家に帰ると、プロ野球のオールスター戦が酒田で行われるので、ホテルに泊まりたくない選手五人ぐらい（巨人の小笠原含む）がうちの実家に泊まることになっていた。しょうがないので、僕が送迎に車出したりてんやわんやしていた。

オールスター戦が行われる、酒田の光ヶ丘にある市営球場の近くで何故か未来型音楽レーベルの懇親会が行われているという情報を得て、試合が始まりそうなのにその懇親会に立ち寄り、選手と一緒に津田大介さんと談笑していた。津田さんも選手（巨人の小笠原含む）も楽しそうであった。

(2010年12月4日の彩夢より)

## 酒田の実家でフェス開催

---

酒田の実家の茶の間と座敷でフェスを開催する夢を見た。アーティストの出演順をかなり悩んでいた僕であった。特に、トリ前をガールズロックバンドにするかトレモロイドにお願いするかでかなり迷ったが、トレモロイドをトリ前で決定したところで目が覚めた。記憶が曖昧であるが、トリはカムロニンバスだったと思う。

実際にトレモロイドはうちの実家に泊まったことがあり、茶の間と座敷を舞台にドラムの村上寛君が一発ギャグ大会を行うという思い出深きステージが繰り広げられたことがあった。

キャパが50人ぐらいしか入れないかも知れないことと、近所から騒音のクレームが来そうなことに目をつぶれば、もしかしたらいいフェスが作れるかも知れない（笑）。

(2010年12月16日の彩夢より)

## 『クライミング・クリーニングロックンロール』

---

今朝は、3曲ぐらい曲を作る夢を見た。曲タイトルは、『ドンガラ亭』『サバンナのど自慢』『クライミング・クリーニングロックンロール』。

『ドンガラ亭』『サバンナのど自慢』の2曲は、酒田でトレモロイドの皆と一緒に作っていた。

最後の『クライミング・クリーニングロックンロール』は、山の奥地で20人ぐらいの家族連れの登山客と一緒にセッションするイベントに参加して作っていた。何故かドラムの使用は禁止され、代わりにカラフルなおにぎりを一個ずつ渡されて、パーカッションがわりに皆で叩いていた。意外といい音が鳴っていて、曲の出来もかなり良かった。

しかし、「クライミング」と「ロックンロール」は分かるとしても、何故「クリーニング」だったのかについては、いまだに分からない。

(2010年12月18日の彩夢より)